

オーストラリア特集2025

「『グッデイ!』ではじめよう、オーストラリア」キャンペーン第二弾開始
各州からの最新情報もお届け!



オーストラリア政府観光局(TA)は、2022年10月にスタートして世界的に成功を収めているグローバルキャンペーン「『グッデイ!』ではじめよう、オーストラリア」と、このキャンペーンの一環として2024年に開始した日本市場向け「オーストラリア世界遺産」キャンペーンを実施している。TAによればキャンペーンは第一弾が期待を上回る好評ぶり、オーストラリアを海外旅行目的地の優先候補の一角に押し上げつつあることから、この好機を捉えてキャンペーンの内容を一段とグレードアップした第二弾を9月24日(水)にスタートさせた。TAはオーストラリア旅行が盛り上がりつつあるタイミングを逃さず日本市場での観光プロモーションをさらに強化し、旅行業界と共にオーストラリア旅行の機運醸成と販売促進を図りたい考えだ。



「『グッデイ!』ではじめよう、オーストラリア」 キャンペーン第二弾開始 キャンペーンがよりグレードアップしてスタート

「『グッデイ!』ではじめよう、オーストラリア」キャンペーン第二弾

グレード
アップ

「あばれる君」起用の新ショートムービーを投入

「『グッデイ!』ではじめよう、オーストラリア」は、TAが2022年10月にスタートしたグローバルキャンペーンだ。カンガルーをアニメキャラクター化した「ルビー」が登場するオリジナルショートムービーでオーストラリア各地の魅力を紹介するなど、映像を駆使したプロモーションでオーストラリア旅行の需要喚起に取り組んできた。

9月からの第二弾では日本、アメリカ、イギリス、中国、インドの5つの主要マーケットで各市場向けの新たな映像を制作した。各国の市場に影響がある著名人が出演する映像の日本バージョンには、お笑い芸人の「あばれる君」が選ばれ、オーストラリア人俳優トマス・ウェザーロールやルビーと映像内で共演。「一生の思い出に残る旅を、オーストラリアで体験しませんか」というメッセージをショートムービーに込めた。

日本市場向けの映像で主役を務めるあばれる君は、TAの公式プログラムである「Friends of Australia」のアンバサダ

ーとしての登場となる。2010年にグローバル規模で始まった同プログラムに日本人が認定されるのはこれが初めて。オーストラリアの魅力を世界に広めることを目的に、各国の著名人やインフルエンサー、業界関係者を「オーストラリアの友人」として迎え、観光PRを行うプログラムだが、これまで元世界ランキング1位のテニス選手アシュリー・バーティ氏や歌手のカイリー・ミノーグ氏、ハリウッド俳優のクリス・ヘムワース氏のほかファッションデザイナー、有名シェフ、環境活動家など各分野で活躍する130名以上が認定を受けてきた。



「グッデイ!」
キャンペーン
特設サイト
はこちら



「オーストラリア世界遺産」キャンペーン

グレードアップ

「あばれる君」が「かたれる君」に変身して登場

グローバルキャンペーン『グッデイ!』ではじめよう、オーストラリアの一環であり、日本市場に特化した取り組みとして2024年5月から始まったのがNPO法人世界遺産アカデミーの協力のもとで展開している「オーストラリア世界遺産」キャンペーンだ。開始以来キャンペーンアンバサダーを務めているのが、あばれる君。今年夏には、世界遺産検定マイスターの認定も獲得。検定受験者のわずか0.18%しか認定されない超難関の称号を得て、キャンペーンアンバサダーとしてのグレードアップも果たした。

第二弾では、あばれる君は3本の動画シリーズに出演している。動画では「あばれる君」改め「かたれる君」として登場し、お勧めのオーストラリア体験を「かたれるツアーズ」として紹介する趣向となっている。



3本の動画タイトルは、「かたれるツアーズ in Daintree」（デインツリー熱帯雨林：先住民の文化に触れアクティブに大自然を満喫）、「かたれるツアーズ in Blue Mountains」（ブルー・マウンテンズ国立公園：ユーカリの香りと青く霞む山々を堪能）、「かたれるツアーズ in Sydney」（シドニー・オペラ・ハウス：舞台裏を巡る特別ツアーに参加）、「かたれる君」が実際に現地を訪れ、五感で体感した感動を「かたれるPoint」として臨場感たっぷりに紹介している。また特設サイトではメイキングムービーも公開している。

今回のキャンペーン第二弾では、制作した動画に合わせてデジタル広告やSNSプロモーションも実施し、キャンペーンの注目度を高めオーストラリア旅行への関心や好奇心を刺激するために、さまざまな取り組みを連動させていく考えだ。

「かたれるツアーズ」で行く、オーストラリアの世界遺産（特設サイト内で動画を公開中）



あばれる君が改名を発表?!

TAの公式Instagramでは、あばれる君が「かたれる君」への改名を発表(?)した。キャンペーンの発表記者会見の翌日9月25日は、あばれる君の39歳の誕生日。この日、あばれる君は「これからは『かたれる君』って呼んでください」と投稿。生まれ変わった理由はただ一つ。アンバサダーを務める『グッデイ!』ではじめよう、オーストラリアキャンペーンで広くオーストラリアの魅力を伝えるためだと説明した。記者会見でも「オーストラリアの旅は、世界遺産をただ見るだけでなく、勉強して、行って、体験して、感動して、一生ものの思い出を見つけて、そしてそれを人に伝えていく精神が大事なんです。だから僕は『かたれる君』に改名した方がいいのでは」と思い改名しました」と冗談交じりに、オーストラリアの魅力を語る喜びと意欲を語っていた。

出発1か月前を目途に早めの申請が安心

ETAについて

観光や出張など現地で就労しない3か月以内の滞在目的でオーストラリアに入国する場合、ETA (Electronic Travel Authority)と呼ばれるビザが必要。ETAは電子ビザで、申請から取得までスマートフォンのみに対応している。

ETAポイント

- 申請時にはパスポート、電子メールアドレス、クレジットカードを用意
- 観光、知人・親族訪問、商用いずれの目的でも取得が必要
- パスポートの残存期間が1年以上あれば、取得日から1年間有効で何回でも入国が可能。1回の最大滞在日数は3か月
- オンライン申請手数料としてA\$20 (約1900円) が必要

(2025年11月現在)

※ETAに関する詳細および最新情報は在日オーストラリア大使館のウェブサイトを確認
<https://japan.embassy.gov.au>

オージー・スペシャリスト・プログラム (ASP)

配信コンテンツの最新情報もチェック!スペシャリスト認定後もレベルアップを!



Aussie Specialist Program

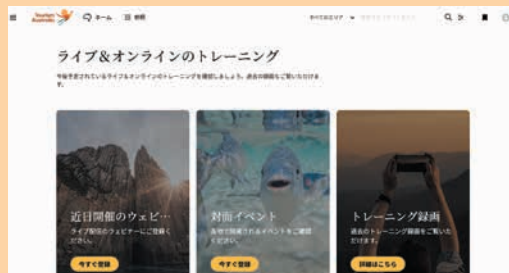
<https://www.aussiespecialist.com/ja-jp>

マイペースに学習しながら情報をアップデート

「オージー・スペシャリスト・プログラム (ASP)」は、旅行会社向けのデスティネーション認定プログラム。オーストラリアの基本情報を万遍なく学べるeラーニングプログラムで、セーブ機能を使えば自分のペースで学習を進めることができる。毎月配信するニュースレターで各州の情報をアップデートできるだけでなく、認定者限定の懇親会や研修旅行のお知らせもあるので見逃さない。

現地情報の宝庫、ウェビナーに参加しよう!

時間や場所を選ばず利用できるウェビナーも毎月配信している。州別、あるいは特集テーマに沿った最新情報を取得でき、ウェビナー中に質問やコメントのやり取りも可能だ。また、ウェビナーやトレーニングコースを完了するとリワードポイントを貯めることができ、保有ポイントに応じてオーストラリア産ワインやハンドソープなどの景



ASPのウェブサイト。ウェビナーの録画も随時公開中

品と交換することができる。ウェビナーの参加登録は、ASPウェブサイト内でチェックを。

※各ページの地名横の()内はその土地のアボリジナルピープルが用いる名称



グレート・バリア・リーフ【クイーンズランド州】



ウルル・カタ・ジュタ国立公園【ノーザンテリトリー】



ロイヤル・エキシビション・ビルとカールトン庭園【ビクトリア州】

オーストラリアは広大な国土に雄大で文化的価値の高い世界遺産が20以上も点在する世界遺産大国だ。とりわけ大自然の神秘に満ちた自然遺産はオーストラリアならではの圧巻のスケール。世界最大級の一枚岩、全長約2300kmに及ぶ珊瑚礁群、太古の熱帯雨林など、大自然が織り成す神々しさと異次元の規模感に圧倒されずにはいられない。

一方で、オーストラリアの文化的な一面を色濃く反映した文化遺産や複合遺産も目だ。唯一無二の建築美を誇るオペラハウスや万博の歴史を今に伝える建造物、世界最古の養殖システムが確認できる遺跡など、どれも知的好奇心をかき立てられる。

また、世界遺産の多くは意外にも主要都市からのアクセスが容易。現地ではさまざまな体験プログラムが用意されており、身近に世界遺産を体感することができる。プロのガイドや先住民アボリジナルピープルと共に世界遺産を深く探索してみたい。



ニンガルーコースト【西オーストラリア州】



シドニー・オペラ・ハウス【ニュー・サウス・ウェールズ州】



New! ムルジュガの文化的景観 2025年に新文化遺産に登録

西オーストラリア州北部に位置するムルジュガには、赤い岩の断崖に200万点をこえるペトログリフ(岩絵)が刻まれている。5万年以上に渡り先住民が継承してきたこの土地との深いつながりを記録したもので、文化的価値の高さが認められた。



ムルジュガの文化的景観【西オーストラリア州】

キャンベラ

キャンベラ・バルーン・スペクタキュラー 秋空を舞う熱気球の祭典



夜明けの空に浮かぶ個性的な熱気球の数々

毎年3月に開催される首都キャンベラのシンボリックイベント。1980年代から続く歴史あるフェスティバルで、浮遊する色とりどりの熱気球が絵のように美しい風景を創り出す。地上から、あるいはバーリー・グリフィン湖から空を仰ぎ、その壮観な眺めを写真に収めたい。熱気球が舞い上がるのは早朝なので、地元の人々は湖畔に朝食や毛布を持ち寄ってその瞬間を待つという。地元のコミュニティに触れ合いながら、屋台で温かい飲み物や軽食を楽しむのもいいだろう。また、地上から眺めるだけでなく、自ら熱気球に乗り込む体験もおすすめ。機能的な都市空間と豊かな自然が織り成す風景を空の上から一望できる。

Canberra Balloon Spectacular
<https://canberraballoonsspectacular.com/>

ノーザンテリトリー

タリングル・ニャクニチャク サンライズに染まるウルルの雄姿



数分間の光のショーを忘れられない1枚に

オーストラリアのシンボリックな一枚岩、ウルル。この巨大な岩で日の出を撮影するならウルル・カタ・ジュタ国立公園内に位置するタリングル・ニャクニチャク (Talinguru Nyakunytyaku) がおすすめ。この高台からは朝日に輝くウルルと遠くに見えるカタ・ジュタの雄大な景色を遮るものなく一望することができる。太陽はウルルの背後から昇り、時間とともにその岩肌を鈍い褐色からオレンジ、深紅、そして赤褐色へと鮮やかなグラデーションに染めていく。神聖な場所であるウルルの文化的意義を尊重しながら、いくつかの遊歩道や展望台からさまざまな構図で撮影を楽しみたい。夜明け前に出発するツアーも催行されている。

Talinguru Nyakunytyaku
<https://uluru.gov.au/things-do/activities/sunrise-sunset/talinguru-nyakunytyaku>

オーストラリアの“映える”体験スポット8選

西オーストラリア州

ロットネスト島のクオッカ 島の人気者とセルフィーを



島のあちこちでふいに現れるクオッカ

自然保護や再生可能エネルギーの取組みで知られるロットネスト島。本土と離れていることから独自の生態系が維持され、西オーストラリア州固有の有袋類、クオッカが数多く生息している。口元が笑っているように見えることから“世界一しあわせな動物”と称されるクオッカは、島の至る所に姿を見せる為、遭遇率はほぼ100%。見た目の愛らしさ通り人懐こく、旅行者と一緒に写真を撮ることも可能だ。クオッカとのセルフィーを旅の目的にする旅行者も増えているが、もちろんむやみに触れたり、餌を与えたりするのは厳禁。餌を食べたり、寝たりしている様子をそっと撮影したい。

Quokka in Rottnest Island
<https://www.westernaustralia.com/jp/places-to-visit/perth-and-surrounds/rotnest-island>

南オーストラリア州

リマーカブル・ロックス オレンジ色に輝く自然のアート



案内板や展望台も整備されている

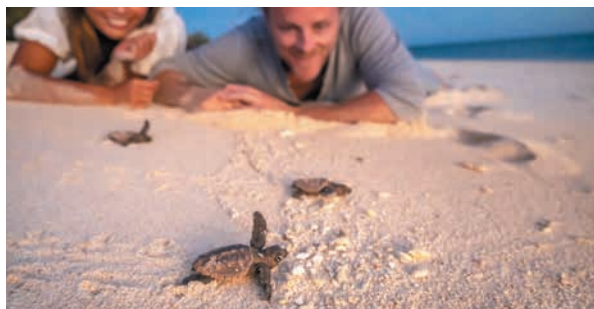
南オーストラリア州南部の沖合に浮かぶカンガルー島は、フォトジェニックな風景の宝庫だ。島の西側に広がるフリンダース・チェイス国立公園ではカンガルーやワラビー、コアラなどの野生動物をはじめ、オットセイのコロニーを見ることが出来る。特に印象的なのは、海岸線上に不安定なバランスで連なる花崗岩の巨岩群、リマーカブル・ロックスだろう。まるで彫刻作品のような岩々は、長い年月をかけて雨や風、波などの浸食作用によって形成されたもの。部分的にオレンジ色の藻類に覆われているため、角度や時間帯によってさまざまな表情を見せてくれる絶好の撮影スポットになっている。

Remarkable Rocks
<https://southaustralia.com/products/kangaroo-island/attraction/remarkable-rocks-flinders-chase-national-park>

クイーンズランド州

ウミガメ

神秘的なウミガメの産卵



ウミガメの旅立ちをそっと見守りたい

グレートバリアリーフには世界のウミガメ7種のうち6種が生息しており、北はケアンズ周辺のグリーン島やフィッツロイ島、南はモンレポやレディ・エリオット島まで広い地域で観察されている。なかでも人気なのは、孵化の時期にウミガメの赤ちゃんが海に向かって歩き出す姿だ。特に有名なスポットは南半球に観られるアカウミガメの半数以上が生息するバンダバーグ地域のモンレポ。ここでは、11～1月の産卵ピーク時に母ウミガメが卵を産む光景を観察できるツアーが実施されている。1～3月にかけては、孵化した赤ちゃんウミガメが海を目指して行進する様子をレンジャーの許可の下、写真に収めることができる。

Sea Turtle

<https://www.queensland.com/jp/ja/places-to-see/experiences/nature-and-wildlife/turtles>

ニュー・サウス・ウェールズ州

ハーバーフロント・シーフード・レストラン

絶景と美食のダイニング体験



写真提供: Harbourfront Seafood Restaurant

明かりが灯る夕暮れ時のテラス席

歴史地区ザ・ロックスのハーバーフロントに位置するレストラン。目の前にシドニー・オペラ・ハウスとシドニー・ハーバー・ブリッジを望むロケーションに恵まれ、シドニーを代表するダイニングシーンとして愛されている。店名の通り、シーフード料理はいずれも一級品で、おすすめは新鮮なシーフードのプラッターやバラマンディなど。そのほか、オーストラリア産の食材にモダンなアレンジを加えた料理の数々やTボーンステーキなども楽しめる。屋根付きのテラスから眺める風景は昼も夜も圧巻のひと言。ビビッド・シドニーや大晦日などのイベント、記念日やウエディングなどあらゆる機会に最適だ。

Harbourfront Seafood Restaurant

<https://www.therocks.com/eat-drink/harbourfront-seafood-restaurant>

オーストラリアには思わず写真に収め、SNSに投稿したくなる観光スポットがあふれている。

雄大な自然や特有の動植物、独自の文化がオーストラリアならではのシーンを生み出すからだ。

ここではさまざまな映えスポットを州ごとに紹介していこう。

ビクトリア州

ホージア・レーン

裏路地散策で触れる創造アート



まるでキャンバスのような壁が見事

メルボルンにはレーンウェイと呼ばれる細い裏路地や屋根のあるアーケードが多数あり、個性的なスポットが集まる文化発信地になっている。なかでもユニークなのは壁に描かれたダイナミックなストリートアートが観られるレーン。世界屈指のアートシティであるメルボルンの象徴的なシーンとして観光客にも人気だ。数多いストリートアートの中で一番のおすすめは、フェデレーション・スクエアに近いホージア・レーン。斬新でカラフルなウォールアートが非日常的な空間を創り上げており、どこを切り取ってもSNS映える写真を撮影できる。日常の生活空間に溶け込むメルボルン流アートに触れられる絶好のスポットだ。

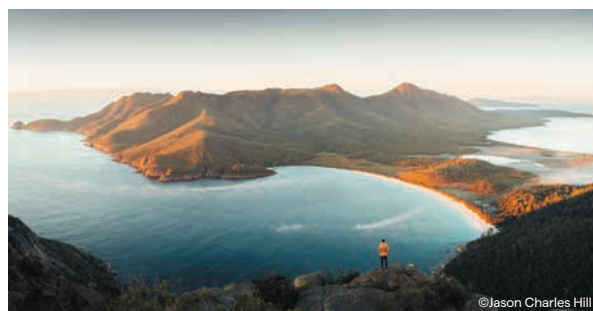
Street art walk

<https://whatson.melbourne.vic.gov.au/things-to-do/walks/street-art>

タスマニア州

ワイングラス・ベイ

ビーチを染める青と白の絶景



©Jason Charles Hill

展望台から望むワイングラス・ベイの全容

半円形の曲線がまるでワイングラスのように見えることからこの名がついた景勝地。真っ青な海と白砂のビーチが美しいコントラストを描き、まさにシャッターを押したくなる絶景だ。州都のホバートから東へ車で約2時間のフレシネ国立公園に位置しており、トレッキングでアクセスできる展望台から眺めるのがおすすめ。また、世界遺産の原生地域内にあるクレイドル・マウンテン・セント・クレア湖国立公園もフォトジェニックな風景に満ちあふれている。野生のウォンバットに遭遇したら逃さず写真に収めたい。“タスマニアのウルル”と言われる大きな岩、ザ・ナットも州北西部の知る人ぞ知る絶景スポットだ。

Wineglass Bay

<https://www.discovertasmania.com.au/regions/east-coast/freycinet-national-park>

ビクトリア州の州都で、19世紀の面影を残した建造物と、近代的な建造物が融合した街並みが魅力のメルボルン。オーストラリア本土で一番小さい州ながら、豊かな自然が広がり、四季の変化により季節ごとにユニークな体験ができる。別名「ガーデンシティ」とも呼ばれるほど緑豊かな公園が点在し、英誌エコノミストの「世界で最も住みやすい都市」ランキングでは、毎年上位にランクインしている。郊外の観光地へのアクセスが良いため移動時間が少なく、滞在時間を有効に活用できる。そんな魅力が多いメルボルンは理想的な観光デスティネーションだ。



ここだけのユニークな体験と快適な滞在をメルボルン(ナーム)

ビクトリア州、メルボルンをおすすめする理由

01 直行便でアクセスが大変良い

カンタス航空と日本航空が東京(成田)ーメルボルン間直行便を毎日運航(2025年11月時点)。乗り換え不要で、メルボルンへのアクセスはとても便利。また、日本の他空港からも成田経由、またはオーストラリアの他都市やアジア経由で楽にアクセスが可能。

02 すぐ近くに豊かな自然

オーストラリア本土で一番小さいビクトリア州に位置しながら、豊かな自然が広がり、四季の変化により季節ごとにユニークな体験ができるメルボルン。郊外へのアクセスが良いため移動時間が少なく、滞在時間を有効に活用できる。リトルペンギンが生息するフィリップ島、「世界一美しい海岸道路」と呼ばれるグレートオーシャンロードなど、メルボルンを少し離れただけで豊かな大自然に触れることができる。



03 市内中心エリアのトラム乗車が無料

トラム(路面電車)はメルボルンを代表する公共交通機関。トラムに乗れば市内のほとんどの観光スポットを巡ることが可能。乗り方も容易なので、初めてメルボルンを訪れる人でも気軽に利用できる。また、市内中心区域、及びドックランド地区内は、すべてのトラムの乗車が無料。市内の外周を循環するシティサークルトラムと合わせて、リーズナブルでより充実した市内観光やオリエンテーションを体験できる。



04 世界レベルのメジャーイベント

1月の全豪オープンテニスや3月のF1オーストラリアグランプリなど、メルボルンでは世界的に知られるイベントが開催されている。スポーツだけでなく、フード&ワイン、花や庭園、アートなど、幅広い分野にわたって楽しめるイベントが多く、ツアープログラムに適応しやすい。

メルボルンでのおすすめ観光体験

コーヒーの街メルボルンでカフェ巡り

世界有数のカフェ文化が根付くメルボルン。街を歩けば、驚くほどの数の素敵なカフェが軒を並べる。メルボルン中心地を通る「レーンウェイ」と呼ばれる路地にはカフェやショップがたくさんあり、街を個性的で魅力的なものにしている。フリンドース・ストリート駅近くのデグレーブス通りやセンタープレイスはその代表で、メルボルンカフェ文化を象徴する場所だ。



大都会やワイナリーの上空で熱気球

メルボルンでは、市街とヤラバレーの上空を遊覧する2種類のコースを体験できる。夜が明けるのに合わせて出発、世界でも有数の美しさを誇るメルボルンの上空に浮かびながら、朝日が昇るのを眺める。ヤラバレーではブドウ畑や高原の上空に浮かびながら、雄大な自然と絶景が楽しめる。熱気球から降りて市内ホテルまたはワイナリーでのシャンパン朝食が楽しめる朝食付きオプションも人気だ。



何でも揃うクイーンビクトリアマーケット

1878年オープン。メルボルンで最も古く「メルボルン市民の台所」と呼ばれる南半球最大の市場。新鮮なシーフードや肉、野菜、フルーツなどの生鮮食料品はもちろん、日用雑貨やお土産を買うのにも最適。また夏季と冬季の毎週水曜



日にはナイトマーケットが開催される。屋台には世界各国の料理が並び、国際色豊か。ミュージシャンによるライブ、ローカルアーティスト達による作品の展示販売などもあり、昼とはまた違った魅力が人気だ。

「Qトレイン」でグルメ体験

Qトレインは、メルボルンから車で約1時間、ベラリン半島にある町、ドライズデールとクイーンズクリフ間を走るレストラン鉄道。往復約3時間かけて地元で生産される食材を使用したコース料理を味わう。ダイニング用に改装された列車からはポートフィリップ湾、ワイナリー、田舎の風景など、美しい景色を楽しむことができる。地元産のワインを飲みながらの美味しい食事は格別の体験となるだろう。



ヤラ川から眺める「メルボルン・リバークルーズ」

数々の橋の下をくぐり、庭園や公園、バランスよく調和されている歴史的建築物と近代的なビルディングなど、絵のようなメルボルンの風景を楽しむこのクルーズはルート別に「公園と庭園」と「港とハーバー」(所要時間:各1時間)、または両方のコース(所要時間:2時間)がある。また、夜間にはレストランとクルーズが一緒になった「スピリット・オブ・メルボルン号」で街の美しい夜景を眺めながら、シェフ自慢のコース料理を堪能できる。



メルボルン近郊で絶品ワインを味わうワイナリー巡り

21ものワイン産地が点在するビクトリア州。その代表は、メルボルン中心部から大変近いヤラバレーで、約70のワイナリーを擁する。日本でもお馴染みのドメイン・シャンドンには広大な景色を望むブドウ畑の他、お洒落なワインテイスティングルームやレストランも併設。日帰りツアーのスポットとしても人気で、個人・団体旅行共に対応できるワイナリーだ。



CHECK!



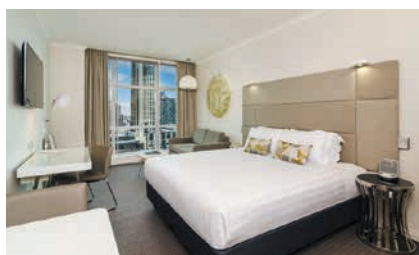
市内のウォーキングマップやガイドブック、カフェガイドなど、ビクトリア州政府観光局ではメルボルン旅行に欠かせない資料を配布している。

メルボルンのおすすめホテル



ヴォコ・メルボルン・セントラル

メルボルン中心部、ロンズデール通りに位置するお洒落なホテル。落ち着いた紺色を基調としたクラシックなインテリアに、高速Wi-Fiやコーヒーマーカー、テラスプール、モダンオーストラリア料理のレストランなどを完備、都会にいながりリゾートのようなゆったりとした滞在ができる。ショッピング通りやクイーンビクトリアマーケットに近く、メルボルン観光に適した最新ホテルだ。全252室。



クラリオンスイーツ・ゲートウェイ

フリンドラス・ストリート駅、メルボルン水族館やクラウン・エンターテインメント・コンプレックスに近い人気4つ星ホテル。簡易キッチン付きの広々としたスタジールームと1〜2ベッドルームスイートから選ぶことができる。朝食は最近改装されたホテル内レストラン「William's Bar & Café」で。トラムの停留所にも近く、観光やビジネスに大変便利。個人旅行やグループにも対応できる。全122室。



スタンフォードプラザ・メルボルン

全客室ゆとりのある広さで、バスタブが付いた日本マーケットに最適な5つ星ホテル。簡易キッチン付きの客室もあるので、長期滞在の方にもおすすめ。観光やショッピング、食事に便利なリトルコリンズ通り沿いの絶好のロケーションで、トラム停留所にも大変近い。全308室。

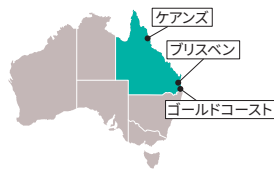
MELBOURNE
そのすべてが特別

ビクトリア州政府観光局 担当: 高森

公式サイト jp.visitmelbourne.com

お問い合わせ ● 電話 080-8179-8854 ● Email japan@visitvictoria.com.au

日本からクイーンズランドへの直行便は州内2カ所へ運航されている。最短アクセスで行ける人気リゾートのケアンズと、街の中心を美しい川が流れリバーシティの呼び名もある州都ブリスベンだ。ケアンズからはグレートバリアリーフや熱帯雨林に覆われた内陸部などへの観光を楽しむことができ、ブリスベンは世界有数のビーチリゾートであるゴールドコーストへのゲートウェイとして機能する。直行便の利便性と快適さを生かしながら、クイーンズランドの魅力を無駄なく楽しめるプランづくりのヒントを紹介しよう。



直行便利用で快適&無駄のない満足旅をプランする

ケアンズ(ギモイ)5日間とゴールドコースト(コンブメリ)&ブリスベン(ミーエンジェン)5日間

ケアンズ

海も内陸も満喫する大満足旅

行程表●ケアンズ5日間

1日目	早朝 ケアンズ着 【ポイント】ホテル・チェックインまでの時間を有効活用 ケアンズ泊
2日目	グレートバリアリーフ観光 ケアンズ泊
3日目	キュランダ観光 ケアンズ泊
4日目	内陸部の大自然の中での体験プログラム ケアンズ泊
5日目	ケアンズ空港発の午前便で帰国

スーパーは朝6時台にオープン

日本からの直行便がケアンズに到着するのは、翌(日)早朝。ナイトフライトでケアンズに朝早く着くというのは、休暇を効率的に楽しみたい日本人旅行者には魅力となり得る。朝6時前の到着もマイナス要素ではなく、現地滞在を存分に楽しめるプラス要素に変えられるのがケアンズだ。

空港で入国審査を終え荷物をピックアップ。シティ(市中心部)へはタクシー、シャトルバス、ウーバーなど複数の選択肢がある。いずれも乗車時間は10~20分程度だが、到着する頃には街はすでに目覚めている。6時から開店のスーパーマーケットやカフェも珍しくないような早起きの街なのだ。

ホテルに荷物を預けて散策へ

チェックインまでの時間はホテルに荷物を預けシティ散策がお勧め。カフェで朝食し、一休みした後は、スーパーマーケットへ。お土産物探しやショッピング情報の収集。いったんホテルでチェックインを済ませた後は、ホテルで寛ぐもよしショッピングセンターへ出かけて買い物やランチを楽しむのもよし。気の向くままに楽しみたい。



夜は埠頭にあるビール醸造所に併設するレストランで、ビールまたはモクテルを飲みながらハンバーガーにオージー名物のチップスの夕食というのが港町ケアンズらしい楽しみ方だ。

グレートバリアリーフに加え熱帯雨林観光も

2日目は海の魅力を味わいたい。ケアンズは世界遺産グレートバリアリーフの観光に最適な拠点で各種ツアーに乗船できる。新たに催行を開始した午後出航の半日のアウトターリーフツアーに参加すれば、午前中は別のアクティビティを楽しむこともできる。その他、遊覧飛行で空からの観光も可能。夕食は海沿いのレストランでシーフードの夕食がお勧めだ。

ケアンズを拠点にすれば熱帯雨林が生い茂るクイーンズランド北部の内陸部の魅力にも触れられる。3日目は手軽に楽しめる内陸観光であるキュランダ村1日観光。熱帯雨林を上空から眺められるロープウェイ「スカイレール」と鉄道のキュランダ観光列車の2つが主なアクセス方法だ。往路と復路で使い分けるの



グレートバリアリーフツアー



スカイレール

がお勧めだ。

キュランダ村ではコアラガーデンやバタフライサンクチュアリを訪れたり、マーケット(毎日開催)でローカルグッズをショッピング。テーマパーク「レインフォレストーション」では熱帯雨林の中で各種アクティビティを楽しむ。

夕食はシティのイタリアンレストランがおすすめ。ケアンズにはイタリア系移民が多く料理の美味しさには定評がある。



キュランダ村

足を延ばして内陸部への日帰りツアーに参加

滞在最終日の4日目。現地旅行会社等が催行する日帰りツアーで郊外エリアのより奥深くを目指す。選択肢は次の5つ。

Aパターン:モスマン渓谷&ポートダグラス。モスマン渓谷を訪れる途中、美しいビーチが続くポートダグラスを観光。

Bパターン:アサートン高原ツアー&グラニット渓谷ツアー。グラニット渓谷では野生のワラビーとの触れ合いにチャレンジ。

Cパターン:午前中はハートリース・グロコダイル・アドベンチャーズ。ワニの餌付けショーは迫力満点。午後からはパネロラパークツアー。熱帯雨林の中にたたずむ遺跡風の建物を訪問。夜間のライトアップもおすすめ。

Dパターン:熱気球とリバーチュービング(またはラフティング)。熱気球は早朝のアクティビティなので、翌日の出発日でも体験可能。午後はラフティングなど冒険体験。子供連れはリバーチュービング(5歳から参加可能)がおすすめ。

最後のディナーは、海沿いのレストランでオージービーフの夕食で締めくくりたい。

円滑な移動で楽しみ方も倍増

行程表●ゴールドコースト&ブリスベン5日間

1日目	朝 ブリスベン空港着後、ゴールドコーストへ移動 【ポイント】すぐにゴールドコーストへ移動する他にも、モートン島観光の選択肢もありゴールドコースト泊
2日目	ゴールドコーストで1日のんびり観光 ゴールドコースト泊
3日目	大自然の中での体験プログラムやテーマパークを楽しむ ゴールドコースト泊
4日目	朝活から始める1日を満喫 ゴールドコースト泊
5日目	ブリスベン空港発の午前便で帰国 【ポイント】ブリスベンの朝便出発に合わせてゴールドコーストを出る慌たしさを回避するため、ブリスベンでのもう1泊がお勧め

もう1泊の場合

5日目	ブリスベンへ移動 ブリスベン観光を楽しむ ブリスベン泊
6日目	ブリスベン空港発の午前便で帰国

ブリスベンから ゴールドコーストへの選択肢

ブリスベン空港到着後、ゴールドコーストへ直行する場合は「コネクションX (Con-x-ion)」社のシャトルバス利用が便利。同社空港カウンターには日本人の案内役もいて安心だ。1時間半ほどで昼前にサーファーズパラダイスに到着する。

このほか時間はかかるが公共交通機関の電車利用という選択肢もある。空港からエアトレインに乗りしヘレンズベール駅で路面電車のG:Linkに乗り換え。サーファーズパラダイス駅などホテルの最寄り駅で下車する。エアトレインとG:Linkの組み合わせはシャトルバスより大幅に割安で節約派にはお勧めだ。G:Linkおよび公共のバスは1乗車50セントで気軽に利用できる。

ホテルに荷物を預けた後は、サーファーズパラダイスのスカイポイント展望台からゴールドコーストの360度のパノラマを楽しんだり、ブロードビーチ・サウスで下車してパシフィックショッピングセンターを訪問。散策やショッピング、ランチ等を楽しめる。

ホテルに戻りチェックインを済ませてから夕食。オーギービーフの夕食でオーストラリアの初日を締めくくる。

空港からモートン島直行も

朝の到着のため、ゴールドコーストへ向かう前にモートン島観光も可能。島へのフェリーの発着場所は空港から車で10分ほど。早い便で島に渡り各種アクティビティを楽しんだ後に戻り、フェリー発着場所から出発のシャトルバスに乗りゴールドコーストへ向かうことも可能だ。

ゴールドコーストの多面的な 魅力を満喫

2日目は地元の人たちのライフスタイル体験を提案。たとえば朝はカフェでアサイーボールの軽い朝食をとり、午前はゴールドコーストらしい観光スタイルの運河巡りへ。HOPO観光クルーズは2時間クルーズや1日乗り降り自由などさまざまなコースがあり手軽に運河クルーズを楽しめる。

運河巡りの途中に立ち寄りたのがHOTA (ホーム・オブ・ザ・アーツ)。国内最大級の公立美術館HOTAギャラリーを中心に、暮らしと芸術をつなぐ拠点エリア。また最上階のルーフトップバーからの眺めが良く、日曜日はファーマーズマーケットが開催され地元の人たちで賑わう。



HOTA

※HOTAギャラリーでは日本でも1980～90年代に雑誌『Hanako』の表紙を飾り大人気となったアーティストのケン・ドーンの大規模展覧会を来年2月15日まで開催中。

2日目の夕食はサーフライフセービングクラブで夕食を。

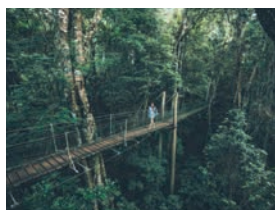
3日目はゴールドコーストから近郊へ足を延ばして観光。パターンは次の5つ。

Aパターン: クンババ国立公園で野生のコアラとカンガルー探し&マウントタンボリン国立公園散策。

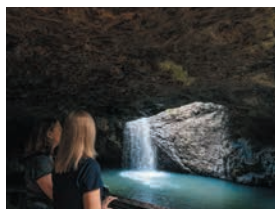
Bパターン: 選べるテーマパーク。ムービーワールド、シーワールド、ドリームワールド、パラダイスカントリーなど好みのテーマパークを楽しむ。複数のテーマパークが集中するゴールドコーストならではの。ホテルとテーマパーク間の送迎に利用できるシャトルバスも運行されている。

Cパターン: ラミントン国立公園またはスプリングブルック国立公園&土ボタルツアー。

Dパターン: クジラウォッチングツアー (5月～10月



ラミントン国立公園



スプリングブルック公園

期間限定) またはワイナリーツアー

Eパターン: ジェットボート、水陸両用アクアダックを体験の後、カジノで夕食&運試し。

4日目は朝活からスタート。初心者向けのサーフィンレッスン体験やカヤック体験にチャレンジ。午後は美しいビーチやお洒落なショッピングやレストランで知られるパレイヘッズに足を延ばしてランチ。ブロードビーチからはウーバーなどで足を確保する必要があるので行く価値あり。このほかバスでも行けるカランビン・ワイルドライフ・サンクチュアリもお勧めだ。

サーファーズパラダイスで水・金・土に開催のビーチフロントナイトマーケットで、屋台をのぞきながら散策するのも楽しい。夜はシーフード料理を堪能。

ブリスベンでプラス1泊を

5日目は早朝にホテルを出てブリスベン空港へ向かい帰国。しかし空港での搭乗手続き、セキュリティチェック等を考えるとかなり早い時間のゴールドコースト出発となる。余裕を持って旅行を楽しみたいならブリスベンでもう1泊するのがベターだ。

その場合は6日目にモートン島への日帰り観光という選択肢もある。あるいはブリスベンのホテルに到着後、クイーン・ストリート・モールで最後のショッピングをしてから、クイーンズワーフのスカイデッキでランチ。同ワーフの目の前にあるノース・キーからフェリーの「シティ・キャット」(1乗車50セント)でストーリーブリッジのたもとにあるハワード・スミス・ワーフへ移動し、ブリッジクライム体験といったプランも組める。

その後はハワード・スミス・ワーフでシティのビル群やブリッジの夜景を眺めながらオーストラリア最後の夕食を楽しみたい。



ワイナリー



カジノで夕食



ブリスベン



ブリッジクライム体験

海はもちろん、世界遺産の国立公園など、緑深い手つかずの大自然が広がる内陸部もゴールドコーストの大きな魅力。ゴールドコーストにはそんな自然を存分に体験できる日本語ツアーが充実している。言葉の心配なく、現地の文化や環境について分かりやすく学べるのが大きなポイントだ。本格的なサステナブル認証を取得したエコツアーのほか、個人で参加できる観光地ツアー、教育旅行や団体旅行のグループチャーターに適したツアーなど多種取り揃えている。ぜひ旅のプランに取り入れてみてはいかがだろうか。



ゴールドコーストの内陸部は緑豊かな美しい大自然が広がる(スプリングブルック国立公園/世界自然遺産)

安心の日本語ツアーで ゴールドコーストの自然の魅力に触れる エコツアーやグループ対応も

ツアーゴールドコースト Tour Gold Coast

エコツアー認証の「ネイチャー・クロニクル」 人気「土ボタル」ツアーも

「ネイチャー・クロニクル」は、オーストラリアのエコツーリズム上級認証を受けた本格的なエコツアー。チャーターアレンジが可能で、教育旅行や団体旅行にも最適だ。

訪れるのは、世界遺産スプリングブルック国立公園、クンババレイクランズ自然保護区、世界初となる砂のバイパスシステムを導入したザ・スピットの3か所。環境保護や野生動植物との共存、アボリジナルの歴史、持続可能な観光について理解を深めることができる。

ツアー参加費の一部は環境保護団体「Green Fleet」に寄付され、SDGsやCSRにも寄与。参加者にはエコツアー参加証明書と、Green Fleetから団体名入りの感謝状が授与される。

また、人気の「土ボタル」鑑賞ツアーでは、洞窟内で輝く土ボタルの幻想的な光を目にすることができる。夜の森を歩くジャングルウォークや、満天の星空鑑賞も貴重な体験だ。ほかにも、シロメィワイナリーのプレミアムツアーやバイロンベイなど、多彩な日本語ツアーを展開。いずれのツアーもチャーターに対応する。



高い学習効果が期待できる「ネイチャー・クロニクル」。SDGsにも貢献



自然の神秘「土ボタル」が生息する「ナチュラルブリッジ」(スプリングブルック国立公園)

クレストツアーズ Crest Tours

国立公園をセレクトしてツアーをカスタマイズ 期間限定のジャカランダツアーも

希望に合わせて、訪れたい場所や時間帯(終日・半日など)に応じたオリジナルのチャーターツアーをアレンジ。いずれのスポットも1日あたり最大48名(ガイド含む)まで対応できるので、グループでの利用が可能だ。

世界遺産のスプリングブルックやラムinton、またタンボリンマウンテン、バーレーヘッドランドなど、ゴールドコースト周辺に点在する国立公園を広くカバー。スプリングブルック国立公園であれば、さまざまなスポットの許可を取得しているので、リクエストに応じて柔軟に対応できる。

期間限定のジャカランダツアーもおすすめ。ジャカランダで有名なグラフトン(ニュー・サウス・ウェールズ州)を訪れ、満開のジャカランダ並木を散策したり、地元で人気のジャカランダ祭りを訪ねたり、充実の内容。今年は10月30日に実施し、来年もフェスティバル時期に合わせて催行する予定だ。



人気の世界遺産スプリングブルック国立公園も多くのスポットをカバー



グラフトンの美しいジャカランダ並木

ツアーゴールドコースト Tour Gold Coast

コンタクト先 ● bookings@tourgc.com.au

クレストツアー Crest Tours

コンタクト先 ● shigeko@cresttours.com

世界180カ国以上に約1万250拠点を展開するエイビス・バジェットレンタカー オーストラリアで「免責ゼロ」や 「日本円払い」など豊富なプラン

「エイビス」と「バジェット」のオセアニア（オーストラリア・ニュージーランド）向けレンタカー商品では、免責ゼロ保険込みのパッケージを販売している。これは、万が一事故が起きたときに発生する免責額（約5000～8000豪ドル）の支払いが不要となるもの。オーストラリアやニュージーランドは日本と同じ左側通行で、海外レンタカーでも運転の違和感が少ないが、この免責ゼロプランを利用すれば、より安心してドライブを楽しめると好評だ。



また、料金は事前払いと現地払いのいずれかを選択でき、旅行者のニーズに応じて柔軟に商品を選べるのも特徴となっている。

ニュージーランド、南北を一度に予約 「マルチアイランド」プランが好評

ニュージーランドの「マルチアイランド」プランは、北島と南島を行き来する際に、レンタカーをフェリーに乗せて移動できる仕組み。一度の予約でスムーズに利用できるため、利便性が高く、コスト面でも割安になると人気を集めている。エイビスとバジェットの両ブランドで利用可能だ。

日本市場向けウェブサイトで 24時間予約可能

日本市場向けウェブ予約システムにはダイナミックプライシング機能を搭載。オンライン上で予約管理が可能となり、旅行代理店はこのウェブサイトを通じて、料金照会や記録確認、予約をいつでも行える。

両ブランドの旅行会社用ウェブサイトのURLは以下の通り。

エイビスレンタカー

旅行会社用ウェブページ

<https://www.avis-japan.com/registagent>

メールアドレス

avis-car@jeiba.co.jp

（エージェント登録は上記ウェブサイトからお申込みください）



165カ国に約5,500の営業所を展開。レンタカー業界のファーストブランドの1つとしてハイスタンダードなサービスと豊富な車種を提供。また、信頼性と顧客満足度を重視し、快適なドライブ体験を提供します。

www.avis-japan.com

バジェットレンタカー

旅行会社用ウェブページ

<https://www.budgetjapan.jp/loginagent>

メールアドレス

support@budgetjapan.jp

（エージェント登録は上記メールからご連絡ください）



120カ国で約3,500の営業所を展開し、リーズナブルな価格設定でレジャーをメインとしたお客様から多くの支持を得ております。また、アメリカ合衆国においては、約1,600の拠点を通じて、最大規模のトラックレンタル業務も運営しています。

www.budgetjapan.jp



旅行会社対象

システム登録で クオカードプレゼント



現在エイビス・バジェットレンタカーでは、旅行会社を対象としたプレゼントキャンペーンを実施中。2026年3月までにエージェント登録を行った旅行会社の予約担当者、先着100名にクオカード500円分を進呈している。



ANAで行くオーストラリアがますます便利に パース線が12月より1日1便に増便

ANA Inspiration of JAPAN

ANAは12月1日より、成田—パース線を1日1便に増便し、デイリー運航を開始する。これにより、西オーストラリア州へのアクセスがさらに便利になる。また、羽田—シドニー線を1日2便運航。羽田を夜に出発し、翌朝シドニーに到着するフライトなら、仕事帰りにそのまま空港へ向かい、到着日から丸一日オーストラリアを満喫できるのが魅力だ。ANAの広がるネットワークで、オーストラリアの東西どちらへも快適にアクセスできる。

ANAオーストラリア路線運航ダイヤ (2025年10月26日～2026年3月28日)※

成田—パース線 日本から唯一の西オーストラリア州への直行便

便名	出発地	出発時刻	到着地	到着時刻	運行曜日	使用機材(クラス)
NH881	東京(成田)	11:10	パース	20:10	毎日(11月29日までは月・木・土)	789(C/PY/Y)
NH882	パース	21:55	東京(成田)	08:30 +1*		

羽田—シドニー線 1日2便の運航、時間を有効活用できるフライトに注目!

便名	出発地	出発時刻	到着地	到着時刻	運行曜日	使用機材(クラス)
NH889	東京(羽田)	08:35	シドニー	20:15	毎日	789(C/PY/Y)
NH879		22:45		10:30 +1*		
NH890	シドニー	12:25	東京(羽田)	20:15		
NH880		21:45		05:20 +1*		

* +1:翌日着



ANAならではのおもてなし 質の高いサービスを提供

ANAのオーストラリア路線は、すべてボーイング787-9型機で運航*。ビジネスクラス、プレミアムエコノミー、エコノミークラスを設定し、数々の世界的アワードで最高評価を受けたANAならではの質の高いサービスを提供する。

ANA
オーストラリア路線に
ついて詳しくは

www.ana.co.jp/ja/jp/international/area/australia



国際線オプションサービスで 自由に旅をカスタマイズ

さらに、ワンランク上の空の旅を実現する多彩なオプションサービスも用意。目的やスタイルに合わせて、自由に旅のプランをカスタマイズできる。

例えばこんなサービス

有料事前座席指定

通路側や窓側の好みの席、また乗り降りに便利な前方や足元の広い人気席を、有料で事前指定が可能に。



有料機内食サービス

通常の機内食とは一味違う、グレードアップした特別な機内食を用意。旅にちょっとした贅沢感をプラス。



事前追加手荷物

お土産がいっぱいになった時など、事前の手続きで当日スムーズにチェックイン。



他にも機内免税品販売プリオーダーサービスやANA Wi-Fi Serviceなど、さまざまなオプションサービスを提供。
国際線オプションサービスについて詳しくは

www.ana.co.jp/ja/jp/guide/reservation/international/optional_svc/?cid=akdsp/2025916



日本の約7倍の面積を誇る西オーストラリア州。可能なら長い休みを取って北へ南へ足を伸ばし、文字通り手つかずの大自然で地球最後の秘境と呼ばれるキンバリーから究極の白砂で愛らしいカンガルーが遊ぶラッキーベイまで思うかぎり旅したいところだが、現役世代にはなかなか難しいのも事実。そんな時には、実は数日間の滞在でもまったく無理なくオーストラリアを満喫できる、日本からの旅行者に優しいデスティネーションであるパース（ボールー）とその周辺が最適だ。本ページでは3日間のモデルコースを通して、現地で楽しみながら癒やしも得られる魅力的な体験の数々を紹介したい。



3日間でも大満足、街歩きも絶景もクオッカも！

「これぞオーストラリア」が勢揃い、若年層にもおすすめの癒やし旅

Day 01

年中温暖、「一番晴れる」街

州都パースは宇宙飛行士による「ひかりの街」の別称を持つが、実際に年3000時間超、毎日8時間も陽射しに恵まれる温暖で光あふれる街でもある。鹿児島と同じ緯度と聞けば暖かさを想像しやすいだろう。

そしてそのパースでは「世界で一番美しい街」とも評される街を楽しむ散策は外せない。主要スポットがコンパクトにまとまり、交通機関の充実もうれしいポイントだ。



歩いて楽しめるパースの2大名所

滞在初日は、パースの2大シンボルであるキングス・パークとエリザベス・キーを軸に街歩きし、そして1日の締めくくりには電車で30分程度のコテスロー・ビーチを訪れるプランを提案したい。

パースの市街地に隣接するキングス・パークは面積が東京の皇居の3.5倍、400ヘクタールにもなる広大な公園/植物園で、市内で最も人気のある観光地のひとつ。

豪州固有の植物319種類や約80種類の鳥類が生息し、春のワイルドフラワー・フェスティバルでは約3000種類もの花々が咲き誇る。また先住民アボリジナルの聖地として植物や土地との伝統的な関わりも尊重。文化や歴史を伝えるガイドツアーもある。市中心部からバスのほか徒歩でも約20分で



移動できるので散歩がてら寄るのもよし、ツアーやヨガなどのアクティビティで自然を体感するのもよしの万能スポットだ。

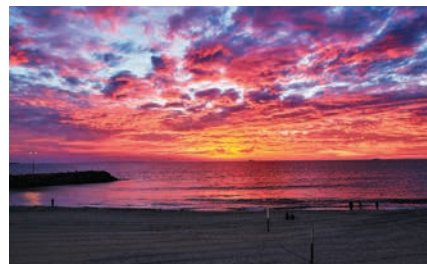
一方、エリザベス・キーは再開発で2016年に生まれ変わったパースの新名所。キー（埠頭）の名の通りスワン・リバーに面する。お洒落な飲食店も数多く立ち並び、フリーマントルの人気クラフトビール、リトルリーチャーズのレストランも年内に開業予定。また周辺には2019年開業のザ・リッツ・カールトン・パースを筆頭にホテルも多数揃い、さらに新しいラグジュアリーホテルも近く開業する見込みだ。



街歩きの観点でも、エリザベス・キーからパース駅まで北東へ800mほどのエリアにマレー・ストリート、ヘイ・ストリートなどの通りが並び、ランチにショッピングにカフェ休憩に、きっと好みの店舗が見つかるはず。スーパーやユニクロなどもあるので土産や急な着替えの購入にも便利だ。

そしてコテスロー・ビーチは、インド洋の大海原に太陽が沈む抜群の夕景を楽しむ。パース駅からコテスロー駅まではフリーマントル線で20分ほど。1km以上も続く

白砂と透明度の高い海が人気で、海沿いのレストランでのサンセットディナーは忘れられない思い出になるだろう。



FITに嬉しい、充実の公共交通機関

パースでは公共交通機関が便利。特に市内ではバスが充実し、市中心部のCATバス5ルートは無料。電車はフリーマントルなどへの移動に最適で、空港との間もたった18分、5.2ドルで結ぶ。

そして交通系ICカードのスマートライダーは電車、バス、フェリーを最大20%割引で利用でき、日曜日は完全に無料になるなどお得がいっぱい。空港の売店や駅窓口などで保証金10ドルと初回チャージ10ドル以上を支払うと入手でき保証金と残金は駅窓口で払戻可能。

遠出ならTranswaの鉄道と中距離バスのほかレンタカーも便利だ。レンタカーは空港や市内で簡単に借りることができ、道路も左側通行で幅も広く日本人も安心して運転することができる。



Day 02

クオッカと対面、歴史&アートも満喫

2日目はロットネスト島とフリーマントル、ノースブリッジへ。ロットネスト島はフェリーでエリザベス・キーから90分、散策も楽しいヒラリーズから40分、後述の港町フリーマントルからは30分の島で、「世界で一番幸せな動物」として世界を癒やしているクオッカの生息地として有名。クオッカは上陸後数分で遭遇できるほどあちこちにいるので、「会えなかったら」の心配が一切ないので、勧めやすい。ちなみに携帯電話で撮影するコツは上下逆さにしてカメラを下にすること。クオッカの笑顔が撮りやすい。



島内ではシュノーケリングにカヤック、イルカやオットセイに会えるボートツアー、セグウェイでの周遊、さらにヨットチャーターやスカイダイビングまでアクティビティが目白押し。宿泊施設と食事の選択肢もラグジュアリーから節約旅まで幅広く、思い思いの滞在が可能だ。



そしてフリーマントルは、州内で最も古い港町で歴史を感じさせるかわいらしい街並みが見どころ。金土日と祝日には1897年から続くフリーマントル・マーケットが開き、生鮮食品はもちろん土産にも適したスイーツや紅茶、ワイン、雑貨なども多く揃う。また世界文化遺産の旧フリーマントル刑務所もあり、オーストラリアの歴史を知ってから訪れると実は大変興味深いので是非調べて

みてお客様にお伝えしてほしい。

そのフリーマントルとパースの間は電車でたった30分ほど。曜日にもよるが多くの時間帯は12～15分に1本の割合で運行されているのでアクセスも至便だ。

パース駅に着いたら、夜はエリザベス・キーから見て駅の反対、北側のノースブリッジやヤガンスクエアのエリアへ。バーやクラブなども多く深夜まで賑わう繁華街で、オーストラリアで最も経済が好調な州のエネルギーを存分に感じられるはずだ。

またここは州立の美術館や博物館、劇場、現代美術研究所などアートやファッションの集積地でもありイベントやフェスティバルなど日中の楽しみも多い。特に雨天などの際には重宝する場所だ。



Day 03

コアラ抱っことワインと絶景を1日で

最終日も「かわいい」「おいしい」「ワクワク」が止まらない。まずは市内から北東へ約20km、スワンバレーのカバシャム・ワイルドライフ・パークへ。日本市場を重視し続けている動物園で、コアラやカンガルー、ウォンバット、クオッカ、ハリモグラといったオーストラリアならではの動物たちに出会える。特に他施設を含めてコアラを抱っこできるのは西オーストラリアのアピールポイントだ。



続いてはワイナリー。短い滞在でもオーストラリア産ワインのクオリティは是非体感したい。州内最古のワイン生産地スワンバレーには40以上のワイナリーがあり、テイ스팅やぶどう畑を望む食事などアクティビティも豊富。クラフトビールやシードルの醸造所、ジンやブランデーの蒸留所も20軒近くあり、さらに蜂蜜やチョコレートの直売所なども集まる。なお、カバシャムやワイナリーも公共交通機関やレンタカー、ライドシェアで訪問できるが、セットになったオプションツアーも利用可能だ。



そして最後は少し足を延ばし絶景のピナクルズを訪れてみよう。パースから車で2.5時間のナンバン国立公園にある奇岩群で、海底にあった石灰岩が侵食され塔のようになった岩が立ち並ぶ。高さは大きいもので4mを超え、黄土色の砂漠に大きな奇岩が生え出たような景色は地上のものとは思えないほど幻想的。星空とのコントラストも人気で、道すがら立ち寄ってサンドボードや

バギー運転を楽しめるランセリン砂丘と組み合わせるのも定番だ。

片道3時間程度の遠出なら世界的にも特に評価の高いワイン産地マーガレットリバーや、15mの反り返る波形の奇岩が110m続くウェーブロックも選択肢に。いずれも路線バスでアクセスできなくはないが、専用車やツアーの手配が望ましい。



旅の記憶を鮮やかに、バラエティ豊かな西オーストラリアの名産ギフト



パースではワインやクオッカグッズはもちろん、抗菌作用が高く他では採れない希少な蜂蜜ジャラハニー、おいしくて配りやすいチョコレートやヌガー、ハンドメイドのかわいい雑貨、自然素材のスキンケア製品など土産もバラエティが豊富。蜂蜜は人気のハニーケーキやトリュフハニーのほか、ボディクリームやフレグランスなどにも利用される。また最近はホババオイルやエミューオイルの人気も高まっている。

加えて、「赤穂の天塩」の原料でもある世界遺産シャークベいの海水を使った天然塩や、日本人が生産に貢献したブルームの真珠など日本とゆかりある製品も多い。旅の楽しい思い出とともに、是非ストーリーあるギフトを持ち帰ってほしい。

モデルコースを
マップで詳しく



世界遺産ブルー・マウンテンズはアクセスの良さも特徴の一つ。中心拠点であるカトゥーンバまではシドニー中心部から車で約90分。その手軽さもあり、日帰り観光で訪れる旅行者も多い。しかし日帰りではスケジュールに収まり切れない多彩な魅力があり、泊りがけでたっぷりブルー・マウンテンズを満喫するのがお勧めの観光スタイルだ。



ブルー・マウンテンズは観光アトラクションの宝庫 滞在してたっぷり楽しみ宿泊してゆったり寛ぐ

Activity | アクティビティ

シーニックワールド

アングルを変えて絶景を楽しみ尽くす

3つの乗り物を使い、ブルー・マウンテンズの絶景をいくつものアングルで楽しめる。シーニック・レイルウェイは世界で最も急勾配の鉄道としてギネス登録されており、最大52度の急勾配で谷下の森に降りていく。ケーブルウェイは空中散歩の感覚でスリー・シスターズなどの景色を楽しめる。スカイウェイは森の上空270mを移動しながら眺望を楽しめるだけでなく、ハーネスを付けてハッチから外屋根へ出て、遮るものなく絶景を満喫できる「ビヨンド・スカイウェイ」プランもある。



Scenic World <https://www.scenicworld.com.au>

ジグザグ鉄道

ノスタルジックな鉄道旅行

急勾配をスイッチバック方式でジグザグ折り返しながら登るためこの名が付いた。開通は1869年で、現在は観光列車として人気を集める。風光明媚な森林地帯、トンネル、砂岩の橋を通り抜けるロマンチックな鉄道旅で、全長11kmを蒸気機関車またはディーゼル機関車で運行。まるでタイムスリップしたようなロマンチックな体験を味わえる。隔週末の金・土・日の運行だが、今後運航日が増加予定。



Zig Zag Railway <https://zigzagrailway.com.au>

ブルー・マウンテンズ・スターゲイジング

街の灯りから遠く離れて星空観察

人工的な照明がない山中で、星空観察を通じて神秘的な宇宙の旅を体験できる。90分間の星空観察ツアーは、満天の星や運が良ければ流れ星も裸眼で鑑賞したり望遠鏡で観察。専門家によるレーザーポインターを使った解説も受けられる。ワイナリーの庭でワイン片手に星空を眺めるプログラムや星空の写真撮影方法を学ぶワークショップ、プラネタリウムツアーもある。



Blue Mountains Stargazing <https://www.bluemountainsstargazing.com.au>

ロット101

農場を中心にグルメもブッシュウォークも

メガロンバレーで持続可能な農業と地産地消の実践に取り組む農場を中心に、宿泊施設、レストラン等で構成する広さ600ヘクタールの施設。レストランは食材を自家農場から調達。ティールームではスコーンやアップルパイを提供。宿泊を組み合わせたダイニングパッケージも用意。敷地内でブッシュウォーキングも楽しめる。



Lot 101 <https://www.lot101.com.au>

ルックアウト・エコーポイント

スリー・シスターズを眺めながらグルメ体験

各地で幅広く飲食店を展開するトリパス・ホワイト・グループ (TWG) が運営するレストラン、バー、カフェで構成する観光施設。絶景のエコーポイントまで徒歩圏内の断崖上に立地し、息をのむ景色を眺めながら食事やアルコールを味わえる。グループにも対応でき、カクテルスタイルで300名、着席で170名まで収容可能。



The Lookout Echo Point <https://thelookoutechopoint.com.au>

ブルー・マウンテンズ・エクスプローラーバス

毎日運行で乗り降り自由なバスツアー

朝9時台から夕方まで乗り降り自由な2階建てバスは年中無休。NSW州のスクールホリデー期間中は30分間隔で運行している。カトゥーンバからルーラにかけてのエリアにある観光スポットを結ぶルートで運行し、23カ所の停留所で乗降できる。シーニックワールドのスカイウェイなどの乗り物と組み合わせて利用できるバスや飲食付きのバスもある。



Blue Mountains Explorer Bus <https://www.explorerbus.com.au>

Walking & Lookout | ウォーキング&ルックアウト

ブルー・マウンテンズをより深く体験するために、できれば歩いて大自然を体感したい。歩けるルートは多数あり、展望台からの絶景とウォーキングを組み合わせ楽しむことができる。ブルー・マウンテンズを象徴する絶景で3つの奇岩が並ぶ「スリー・シスターズ」を

間近に見られるスリーシスターズウォークは、エコー・ポイントを起点に往復0.8km、所要時間25分〜45分の手軽なルート。家族揃って歩くことができる。

ウェントワース・フォールズの滝の上のピクニックエリアが起点の往復1.4km、所要時間45分〜

1時間のルートでは、途中の展望台で落差100mの滝を間近に見ることもできる。

またマウント・ブラックヒース展望台を訪れば、ブルー・マウンテンがその一部を構成しているグレート・ディバイディング山脈（大分水嶺山脈）の絶景を望むことができる。

Accommodation | 宿泊施設

パレ・ロワイヤル・ブティックホテル

1896年にコテージとして建築され、その後、女性のための寄宿学校だった時代もある建物が、現在はエレガントなブティックホテルに生まれ変わっている。40室全てが専用バスルーム付のデラックスルーム。館内の「ガゼルズカフェ&レストラン」は75年以上前にあったダイニングルームを、オリジナルの椅子や暖炉も含めて当時のままに再現している。

Palais Royale Boutique Hotel
<https://palaisroyale.com.au>



画像提供: Palais Royale Boutique Hotel

フェアモント・リゾート・ブルー・マウンテンズ・Mギャラリー

224室（スイートを含む）の客室だけでなく、レストラン、会議・宴会施設、屋内・屋外プール、テニスコート、キッズゾーン、ジムなどに加え、受賞歴のある「ウピカ・デイスパ&ウェルネスセンター」や隣接地には「ルーラ・ゴルフ・クラブ」もある総合リゾート。もちろんジャミソン渓谷のパノラマも大きな魅力だ。アコーのプレミアムブランド「Mギャラリー」のブティックホテルコレクションでもある。

Fairmont Resort Blue Mountains
<https://www.fairmontresort.com.au>



画像提供: Fairmont Resort Blue Mountains

リリアンフェルズ・ブルー・マウンテンズ・リゾート&スパ

5つ星のハイエンドホテル。85の客室とスイート、屋内・屋外プール、テニスコート、デイスパ施設等を備える。ダイニングルーム「ダーリーズ」は地元の食材を中心としたメニューを提供。ラウンジではサンドイッチやスコーン等と紅茶を楽しむ伝統的ハイティーも人気。来年からは「アーダー・ホテルズ&エステーツ」ブランドでローンチする予定。

Lilianfels Blue Mountains Resort & Spa
<https://www.lilianfels.com.au>



画像提供: Lilianfels Blue Mountains Resort & Spa

ハイドロ・マジェスティック

メガロン・バレーの素晴らしい景色が望める1904年創設の由緒あるホテル。「シャーロック・ホームズ」の作者、コナン・ドイル卿など著名人も数多く宿泊。ブルー・マウンテンズで最も有名なレストランのひとつ「ウィンターガーデン」と別棟に独立している「ボイラーハウス」が提供するメニューや、ホテルの歴史を感じさせる優雅なハイティー体験は旅行者の憧れだ。

The Hydro Majestic
<https://www.hydromajestic.com.au>



画像提供: The Hydro Majestic

エコーズ・ブティックホテル&レストラン

このエリアのランドマークである「スリーシスターズ展望台」からわずか600mの場所に立地する全14室のブティックホテル。受賞歴のある「エコーズ・レストラン&バー」は、新鮮な地元食材を使ったモダン・オーストラリア料理で知られる。ジャミソン渓谷と断崖のパノラマを眺めながら飲食を楽しむロケーションが、味を一段と引き立てている。

Echoes Boutique Hotel & Restaurant
<https://www.echoeshotel.com.au>



画像提供: Echoes Boutique Hotel & Restaurant

キャリントン・ホテル

カトウーンバ駅から5分、町の中心部に立地する。ヴィクトリア朝黄金時代を彷彿とさせる建物は国内に現存する最古のリゾートスタイルホテルとして文化遺産に登録されている。65の客室とスイートはそれぞれ異なるデザインが特徴だ。国内でも数少ないビクトリア朝スタイルのダイニングルームもホテルが積み重ねてきた歴史と由緒を感じさせる。

The Carrington Hotel
<https://thecarrington.com.au>



画像提供: Carrington Hotel

ブルー・マウンテンズ観光局

最新情報や詳細情報をチェックして観光プランを立案するなら、ブルー・マウンテンズ観光局（BMT）のウェブサイトは必見。宿泊施設、レストラン、ブルワリーのリストや、アトラクション、ツアー催行会社、ゴルフコース等の案内、イベント情報などを網羅している。

Blue Mountains Tourism
www.visitbluemountains.com.au

ウルトラトレイル・オーストラリア (Ultra-Trail Australia by UTMB)

山岳地帯を100マイル（161.5km）にわたって走破するウルトラトレイルとして世界最大級に位置付けられるUTA。開催地はブルー・マウンテンズ。世界的な組織UTMBが認定する世界で4つしかないワールドシリーズメジャーのひとつでもある。毎年5月中旬に開催され、100マイル、100km、50kmなど6種目を実施する。

Ultra-Trail Australia by UTMB
<https://uta.utmb.world>



オーストラリア3都市へノンストップ オーストラリアへは、カンタス航空で

カンタス航空は、東京（羽田／成田）からオーストラリア3都市（シドニー、ブリスベン、メルボルン）へ、毎日直行便*を運航、2025年12月15日から2026年3月28日までは、札幌（新千歳）ーシドニー直行便を週3便で運航する^。オーストラリアへは、乗った時からオーストラリア気分になれるカンタス航空がおすすめだ。

*スケジュールは予告なく変更になる場合があります。 ^政府および関係省庁の認可を条件とします。スケジュールは変更になる場合があります。

SCHEDULE

便利で充実したフライト選択肢 日本各地からの乗り継ぎも便利

東京（羽田／成田）からオーストラリア3都市（シドニー、ブリスベン、メルボルン）へ毎日直行便*を運航するカンタス航空。なかでもシドニーへは、1日2便運航しているので、ニーズに合ったフライト選択ができるのが便利。オーストラリアは日本との時差が少ないので、着いた直後から時差ボケを気にせず観光を楽しめる。また日本各地からは、日本航空またはジェットスター・ジャパンの国内線を利用することで、羽田や成田経由での乗り継ぎはスムーズだ。

*スケジュールは予告なく変更になる場合があります。

SERVICE

オールインクルーシブで安心・快適

カンタス航空の日本発オーストラリア行きのすべての運賃には、以下の項目が含まれているため、追加料金はなし。トータルで考えればリーズナブルに、ストレスなく安心して旅ができる。

	運賃	燃油サーチャージおよび諸税込の運賃を提供
	受託手荷物	日本発オーストラリア、ニュージーランド行きのフライトでは、エコノミークラスは30キロ、ビジネスクラスは40キロまで個数制限なしで、無料で預けられる
	機内食、飲物	もちろんすべて無料。オーストラリア産のワインやブラントベースの食事など、現地の味や健康、環境を意識したニーズにも応える
	機内エンターテインメント	映画やドラマ、音楽など、1000時間以上の幅広いコンテンツを提供。好きな時間に好きなだけ楽しめる

NETWORK

オーストラリア国内各地へ充実のネットワーク

カンタス航空はオーストラリア国内線の充実したネットワークを持っており、国内就航都市数は60都市以上#。シドニー、ブリスベン、メルボルンで乗り継げば、日本からの直行便がない都市へもスムーズにアクセスできる。

#就航都市数は2025年11月4日現在のものです。変更になる場合があります。



ECONOMY CLASS

快適な座席でゆったりとくつろげる エコノミークラス

人間工学に基づいて設計されたゆったりとくつろげるシートで、豊富な機内エンターテインメントが楽しめる。

またボリュームのある機内食は3種類から選べ、オーストラリア産のワインも豊富にラインナップ。搭乗した瞬間からオーストラリアを感じることができる。

運賃に受託手荷物が含まれているので、日本発オーストラリア行き航空券の場合、エコノミークラスでは個数制限なしで総重量30kgまで無料と安心。



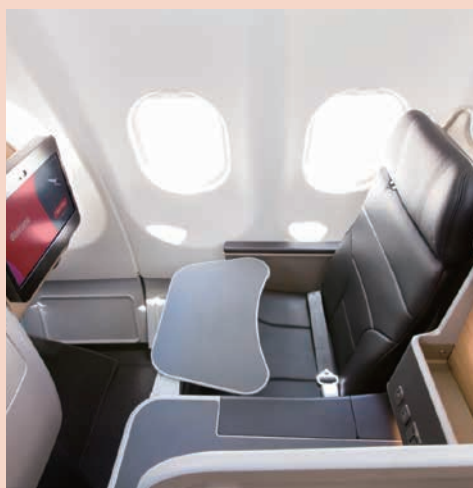
BUSSINESS CLASS

離陸から着陸までリクライニングが可能 ビジネスクラス

全席通路に面したビジネススイートは、離陸から着陸まで、専用のマットレスを付けたままフルフラットベッドでのリクライニングが可能で、PC電源とUSBポートも完備。収納可能なタッチパネル式モニターでは、豊富なエンターテインメントを周辺の音を軽減する機能付きのヘッドフォンで楽しめる。

また、コットン100%のパジャマやサステナビリティを意識したアメニティキットを用意。オーストラリアの人気シェフ、ニール・ペリー氏がプロデュースした機内食もぜひ味わいたい。出発前は、ビジネスラウンジでゆっくりとくつろぐことができる。

なお、ビジネスクラスでは、日本発オーストラリア行き航空券の場合、個数制限なしで総重量40kgまで無料だ。



ブリスベン空港 カンタス ビジネスラウンジ

CHECK!

国内線が30%オフ「カンタス・エクスプローラー」

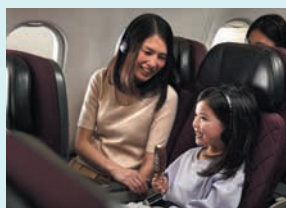
カンタス航空のオーストラリア行き国際線と同時に、オーストラリア国内線を予約すると、国内線の基本運賃（諸税、手数料除く）が30%割引となる「カンタス・エクスプローラー」が適用される。日本からの直行便がない都市へも、カンタス航空ならスムーズかつお得に旅することができる。

～ 諸条件が適用されます。



「お客様の声・体験談」をウェブサイトで公開

カンタス航空では、実際にカンタス航空を利用した乗客の生の声を帰国時にヒヤリング、その動画を「お客様の声・体験談」としてウェブサイトで公開している。オーストラリアでの思い出や、カンタス航空を利用した感想など、リアルな声や体験談がチェックできるので、参考にしたい。



▶ [ウェブサイト「カンタス航空 お客様の声」](#)

人気の機内食、オーストラリア産ワインも



日本路線のエコノミークラスでは、常時3種類から選べる機内食を用意。プラントベースのメニューも用意しているので、健康や環境に配慮したい人にはおすすめです。ワインはオーストラリア産をミニボトルで提供。特別機内食も豊富に用意しているので、各個人の要望にも対応する。リクエストは、出発予定時刻24時間以上前まで（ユダヤ教徒食は36時間前まで）にウェブサイトの「予約照会」のページから可能だ。



カンタス航空で、オーストラリアを よりお得に、より自由に。

カンタス・エクスプローラー*でお得にオーストラリアを周遊しましょう。
カンタス航空のオーストラリア行き国際線と同時の購入で
オーストラリア国内45以上の目的地への
基本運賃（諸税、手数料を除く）が30%割引になります。

*カンタス・エクスプローラー運賃は、カンタス航空のオーストラリア行きの国際線運賃と同時に予約する必要があります。この運賃の有効期間は国際線航空券と同一になります。カンタス・エクスプローラー運賃は、オーストラリア国内でカンタス航空が販売・運航する一部のフライトでご利用いただけます。割引額は基本運賃との比較に基づきます。ある路線に対し、カンタス・エクスプローラーよりも安価なセール運賃を利用できる場合があります。オーストラリアへの旅にカンタス・エクスプローラーの運賃を適用するには、ご予約時に複数都市滞在オプションを選択してください。

